葛飾
為一
遺墨

北齋漫畫十三編

全

北斎漫画十三編刻成矣
嗚呼富哉戴斗翁の筆
十体兼芥子園の理窟を
脱して人情世態乃洒落一
編ことに其妙を盡く愈
出て愈奇なり日襄小冐

山人六樹園式亭の諸先達か序なり余まゝ何とか言ん嗚呼富哉戴斗翁の筆

己酉秋窓雨夜秉燭書

山翁外史小笠

葛飾爲一老人筆

北斎漫畫十三編

書舗 東壁堂梓

倶利伽羅不動
くりからふどう
右ノ劔龍ハ即チ
左リ之索也ク

三面大黒天（さんめんだいこくてん）

和気清麿（わけのきよまろ）

猿樂比部
薩摩守
業平餅

塗附（ぬりつけ）
廟祝（ねぎ）山伏（やまぶし）

甲列牛石
同 猪鼻

銚子帆掛岩
相州烏帽子岩

相州森戸
和州三笠山

相州六浦
利根

利根遠帆
甲列鳥澤

筑波遠景
木曽勢川

略筆の編

其二

猶略

篭(カゴ)の渡(ワタリ)

湖に
闚ク
大イナル
破流
溌走ル

裏面
蜘手ニ落ル
斜流
薄キ

鏡眼締

魚籃觀世音（ぎよらんくわんぜおん）

象（ぞう）

虎（とら）

奔虎（はしるとら）

甲州
大畑山
桟木橋

駱駝 らくだ
椰子

急流の深
極て浅とハ
次の編に画

石川
深川

甲州に干瓢を製す

岩茸取（いはたけとり）

猿さる

御
現金

明王出現
ゑんまんが淵

砂糖製（さとうをせいす）

須すゆ
晝ひる

弥み
夜よる